

Special Interview

三井住友信託銀行 大山 一也 社長 スペシャルオリンピックス日本 平岡 拓晃理事長

Chapter1に引き続き、トップ対談を掲載！

03. パートナーとして共に歩み、 多様性の相互作用を生み出す

【大山社長】 スペシャルオリンピックス日本の理念に深く共感したからです。1つ目は、今お話しいただいた「DE&Iラボ」。まずは、当社と知的障がいがある方との関わりを少しお話します。当グループは、障がい者の自立を支援する「チョコレート工房」や「ショコラ房」の企業理念に賛同し、2019年のオープン時から、障がいのある社員の派遣や各種販売協力等を行っています。福祉事業所としては全国初のチョコレート工房で、障がいのある息子さんを持つ当社の元社員が、「ありがとう」と言い続ける人生ではなく、「ありがとう」と言ってもらえるような人生を送ってほしいとの思いで立ち上げたものです。ここでは、チョコレートをカカオ豆の殻剥きから手作業で製造しており、障がいのある人となない人が、それぞれの特性を活かした工程を担っています。手作りなので、一人ひとりの個性が出るのですが、「一つ一つが違っていい」というのがショコラ房のコンセプト。この支援を通じ、知的障がいのある方とのコミュニ

Be with all ～多様性の相互作用～

ケーションや仕事の任せ方などを学びました。

そこで、これまで、当社の障がい者雇用の大半は身体障がいのある社員でしたが、知的・精神（発達）障がいのある社員の雇用推進の枠組みとして、2022年に「DE&Iラボ」を立ち上げ、2024年7月時点で管理者が3名、障がいのある社員が18名います。今年4月にはDE&Iラボ（大阪）を管理者2名で立ち上げ、7月に社員3名が入社しました。実は、DE&Iラボの起ち上げに当たっては、管理者を社員から公募したところ予想以上に多くの手



ショコラ房の様子（写真提供：三井住友信託銀行）

Chapter.2

SMTBがSON活動への参画を決めた背景





2023年スペシャルオリンピックス世界大会ベルリン
—ユニファイドスポーツ®・ボウリング



ショコラ房の様子 (写真提供：三井住友信託銀行)



が挙がり、多くの社員がこういった取り組みに共感し共に活動したいと考えていることが分かったことは、大きな収穫です。

「for us から with usへ」 「ユニファイド」

2つ目は「for us から with usへ」、「ユニファイド」。SONの動画に「お互いの違いや個性を認め合い、多様な人々が生きる社会の実現を目指す」というメッセージがありましたが、当社の障がい者雇用は、「共に働く」というコンセプトのもと、特例子会社などの制度は現時点で適用せず、各店部に配属しています。障がいのある社員とただ同じ空間に一緒にいるということではなく、障がいのない社員も一緒にあって共に取り組むことで、「助ける」ではなく、「学ばせてもらう」、そういう実感、体験を社員に広げたいと思っています。同じ動画の中で平岡理事長は、「当初は知的障がいのある人のために何かしてあげたいとか、自分ができることは何だろうという思いで関わっていたが、実は、自分たちにも返ってくるものがたくさんあって、自分に新しい気付きを教えてくれた」と仰っており、「各個人のあらゆるハンディに負けない精神」「頑張る勇氣」という表現もですが、まさにそういう体験をスペシャルオリンピックス日本への参画を通じて社員にしてほしいと思っています。

「Be with all」「for us から with usへ」 に「for all」を加えたい

3つ目は、「Be with all」「for us から with usへ」に「for all」を加えたい。人間には一人ですることには限界があり、他人への共感と協力が、ホモサピエンスが進化した源泉だと思っています。イノベーションは「多様性の相互作用」から生まれると考えます。各人の個性や特性を活かすことで、皆で新たな価値を生み出すことが大切です。しかし、多様性を確保しただけでは、相互作用は生まれません。相手の個性を尊重し、言いたいことを言い合っても否定されない、いわゆる「心理的安全性」が確保されたインクルーシブな組織でなければ、多様性の相互作用は起こらない。「DEE&」活動は、イノベーションを生み出す経営戦略として取り組んでいます。



SON動画「Be a fan」はこちらからご視聴いただけます。

